



国内でロンドン大学の国際プログラムを 学び、2つの学位取得を目指す

武蔵大学 経済学部



マンツーマンの英語指導を受け、 学びの土台となる英語力を鍛える

2か月間、セブ島で英語漬けの日々を過ごしました。帰国後はスピーキング力やリスニング力をキープするため、毎日MCV（*1）に通いました。（萩原さん）

オールイングリッシュの 授業で、経済学を学ぶ

英語で経済学を学ぶのは難しいと思っていましたが、経済用語などは、日本語よりも英語で学ぶ方が理解しやすいと感じることもありました。（萩原さん）



友人と図書館で復習を 行い、理解を深める

確実な授業理解や試験対策のために、友人と図書館で勉強しています。友人からの質問に自分の言葉で説明することで、自分の思考も整理でき、授業の理解も深まります。（鎌田さん）

武蔵大学経済学部では、2015年度から、同大学の学位に加え、ロンドン大学の学位取得を目指す「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」（以下、PDP）を開設している。同大学の履修科目と並行して、国際的に評価の高いロンドン大学のインターナショナルプログラム（以下、IPE）を学ぶことで、グローバルに活躍できる人材の育成を目指している。

PDP受講の定員は約35人で、経済学部新入生の中から希望者を募り、英語などの試験を行い選抜する。PDPの1期生で経営学科3年の萩

ロンドン大学の授業に備え、 英語力を強化



経済学部
経営学科3年
萩原綾音
はぎわら・あやね
東京都立富士高校卒業。
マーケティングに興味があり、経営学科に入学。



経済学部
経済学科2年
鎌田優樹
かまた・ゆうき
東京都立日比谷高校卒業。
得意な数学を生かそうと経済学科に入学。

*1 Musashi Communication Village の略。武蔵大学内にある、英語を始めとする外国語を楽しみながら学ぶための学習スペース。常駐するネイティブスピーカーのスタッフと、少人数制英会話レッスンやフリートークができる。

原綾音さんは「『英語で経済学を学べる』ことに興味を持ちました」と受講の動機を語る。経済学科2年の鎌田優樹さんは、中学校時代の友人の萩原さんからPDPの話を聞き、同大学への入学を決意したという。

「萩原さんの話から、PDPには、深く思考して自分で答えを導き出していくような授業が多いと感じました。自分の理想とする学びができるのではないかと思います」

PDPでは、授業はもちろん、使用される教材や試験もすべて英語だ。そのため、受講が決まった学生は、1年次の4～5月に英語の強化授業を受け、6～7月はフィリピン・セブ島の語学学校で英語の集中講義を受ける。8月末までにロンドン大学の英語入学基準（*2）を満たせば、9月からのPDPの基礎教育プログラム（以下、IFP）を履修することができる。

論理的思考力が問われるため、予習・復習が必須

IFPを履修した学生は、翌年4月の期末試験に合格すれば、専門課程のIPに進むことができる。1期生20人のうち、IPに進んだのは7

人。IPにも毎年試験があり、3年間で12科目を履修して合格すれば、ロンドン大学の経済学の学士号が取得できる仕組みだ。萩原さんは、IPの授業の様子を次のように話す。

「教授との距離が近く、対話しながら学びを深めていく形式なので、知識を得るだけでなく、論理的思考力も鍛えられています。また、対話を充実させるには、入念な予習・復習が必要なので、休日は家庭学習時間に充てています」

また、試験でも論理的思考力を測るような問題が多く出題される。

「最近の経済動向に関する資料を読み取り設問に答える問題や、経済問題に関して自分の考えを述べるロングエッセーなど、知識を組み合わせて深く思考し、書く問題が大半のため、単に暗記するだけの学習では太刀打ちできません。試験対策の補講に参加したり、過去問題を解き、先生に添削してもらったりしています」（鎌田さん）

学生たちは、留学と同等の高度な英語力に加え、論理的思考力を必要とする授業や試験を受ける中で、授業時間外での自主学習の重要性を実感し、実践している。

パラレル・ディグリーだから授業内容を確実に理解できる

PDPでは、留学とは異なり、経済学に関する日本語の授業と英語の授業を並行して履修できるため、授業内容を確実に理解できる。

「2年次後期に受講するIPの科目『Principles of Accounting』（会計学）に備え、前期に武蔵大学の科目『簿記演習』を履修し、日本語で概要をつかんでおけば、英語での授業理解もスムーズにいくと思います」（鎌田さん）

また、PDPの受講にかかる費用は年間15万円程度で、留学に比べて経済的な負担が少ないのも特徴だ。

PDPでは、留学せずにロンドン大学の学位取得が可能だが、留学の道も開かれている。萩原さんは、3年次後期からIPを導入しているシンガポールのSIM（*3）への長期留学を決めた。

「英語しか通じない環境下で自分の力を試してみたいと思っています。そして、将来は日本にこだわらず、PDPでの学びの成果を評価してくれる企業に就職したいと思っています」（萩原さん）

大学の思い

世界レベルの授業を受け自ら学ぶ力を高めてほしい



経済学部 教授
東郷 賢
とこう けん

ロンドン大学のIPは、現在、世界180か国以上において採用されており、受講者の中からノーベル賞受賞者も輩出している国際的なプログラムです。試験の作問や採点も現地で行い、評価は厳格です。この試験で優秀な成績を取れば、世界基準で「優秀」な人材だと認められ、海外での大学院進学や就職の道も開かれています。

ただ、毎年試験に合格し続けなければ、ロンドン大学の学位は取得できないため、継続的な自主学習が必要で、実際に、学習量の多い学生が結果を出しています。2期生募集の説明会では、ハードな勉強が必要だと話しましたが、1期生の充実した学びに共感する希望者や、PDP受講を目的とした入学者も増えています。また、企業の方からも興味を持っていただき、手応えを感じています。

これからPDP受講を希望する学生に期待したいのは、数学の基礎力です。経済学において、数学的手法を用いた分析は欠かせません。今年度から選抜試験に数学を加え、授業でも数学を強化していきます。

*2 IELTS オーバーオールスコア 5.5 [各項目 5.0] 以上あれば、9月からIFPを履修できる。
*3 Singapore Institute of Managementの略。